

## 高岡市開市 300 年記念祭（大正 2 年）の様子について

今をさかのぼること約 100 年前、高岡市では前田利長公による高岡開町から 300 年を記念して、市民一丸となり「高岡開市 300 年記念祭」を挙りました。記念祭では利長公の遺徳を偲ぶとともに、高岡市の発展を願い様々な催しが開催されました。

高岡開町 400 年を迎えるにあたり、残された資料から開市 300 年記念祭の様子を振り返ります。

### 開市 300 年記念祭概要

#### 1 趣旨（原文のまま）

加賀藩主二世前田利長公は慶長年間兵馬從僉の際に当り我高岡城を築城し、ここに高岡市の基礎を創設す。在城すみやかに五年なりと言えども其間国を治め、民を撫し、銅鉄器の業を始めとし各種商工業を奨励し、治跡赫々として市民其澤に浴する。ここに三百年、今や高岡市は各般の商工業勃興し、富直鉄道の全通と伏木港湾の改築はいま以て高岡市商工業に裨益するもの多大なり。時恰も富山県は聯合共進会を開催するの計画あり。此の好期に於いて高岡市民は藩祖の遺徳を追頌し将来益奮励していやくも公の遺業を失墜せざらんことを期し、茲に高岡市有志は高岡市三百年記念会を創立することを決したり。  
(高岡開市 300 年記念会趣意書より)

#### 2 記念祭開催期間 大正 2 年 9 月 10 日～10 月 20 日（行事一覧は以下のとおり）

### 高岡開市 300 年記念祭中行事

#### 九月

九月 十日：中祭、市内総祭、瑞龍寺諏訪祭開始（～十六日）、教育展覧会（～十九日）、花火  
九月十一日：川巴良神社報告祭（午後四時）  
九月十二日：大祭（～十四日）、手踊（～十四日）、花火（～十四日）、開町接待所開設（～十四日）、開町祇園囃  
九月十三日：侯爵家代拝参向、曳山車、教育者大会、廣乾寺小銭展覧会開設（～十五日）  
九月十四日：教育者大会  
九月十五日：青年大会、射水神社遷座記念四十年祭（～十七日）  
九月十六日：射水神社渡御（二上分社）（～十七日）  
九月二十日：花火、会議所視察、定塚町熊野神社報告祭（午前九時）、定塚町神明宮（午前十時）、曹洞宗墓前読経（繁久寺）、終了後墓前稚児行列

九月二十一日：有磯神社報告祭（～二十三日）  
九月二十二日：花角力（～二十四日）手踊（～二十四日）、記念会優待日、旗行列、開町接待所開設（二十四日）  
九月二十三日：記念会優待日（～二十四日）、提灯行列  
九月二十四日：中祭  
九月二十六日：神宮奉斎会祭典（二十八日）

#### 十月

十月 一日：大祭（～三日）、高岡神社秋祭、花火（～三日）、旗行列  
十月 二日：神輿御渡（～三日）、襲行列（～三日）、行啓記念日  
十月 三日：千木屋町西福寺慶賛、宝物展（～五日）  
十月 六日：花火、提灯行列  
十月 十七日：中祭、花火  
十月 二十日：中祭

### 3 様々なイベントの開催

記念祭期間のなかでも、利長公が高岡城に入城したといわれる9月13日は、最も重要な日として位置づけられ、高岡神社で大祭が執り行われたほか、御車山の特別巡行などが行われた。

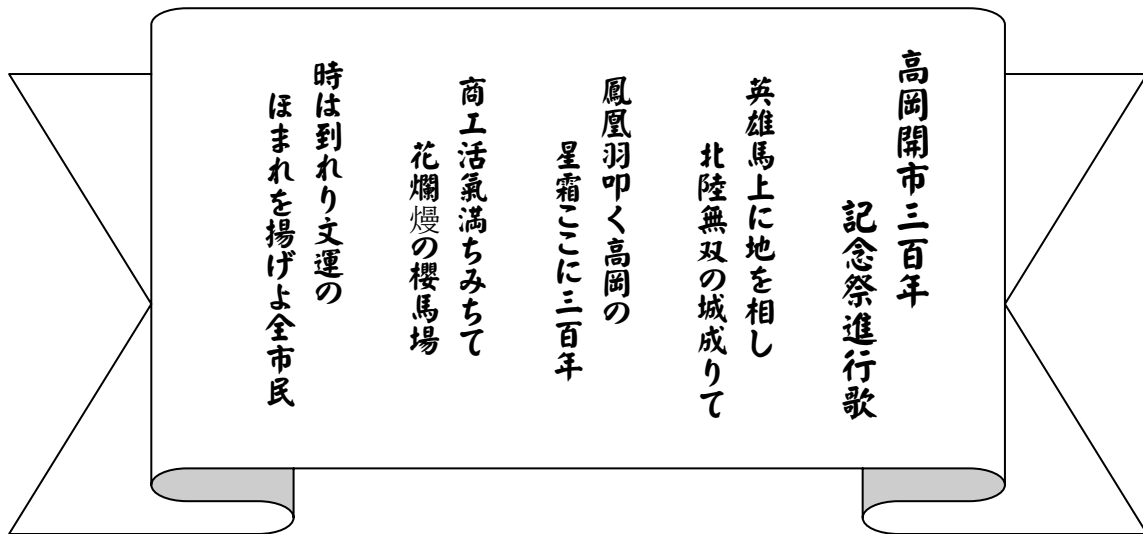
その他にも期間中は、記念会主催で能楽、演舞、相撲、提灯行列、旗行列、楽隊行列等が開催されたほか、各町内や各種団体が自ら工夫をこらした余興を催し開市300年を祝っている。内容は、利長公人形山車、相撲、羽衣和田芸妓手踊り、屋台、洋装社会行列、行商人行列、女装行列、囃子屋台、浄瑠璃行列、社会行列、滑稽行列、鳳凰宝船に七福神大山車、変装行列、ヴァイオリン行列、尺八行列、仮装提灯行列などなどバラエティーに富んでおり、当時の賑わいを想像するに難くない。

### 4 期間中の市内の様子

記念祭期間中、市内のいたるところで華やかに装飾がほどこされた。高岡駅では電飾を施した記念アーチの設置、古城公園ほか市内各所では臨時電燈の設置、桜馬場通りではイルミネーションを設置し通りを華やかに飾った。また市民は、各家で記念旗、記念提灯や幔幕を掲げ祝意をあらわし、祭りを盛り上げた。



↑高岡駅前の記念アーチ



上は9月10日、13日、10月16日に開催された提灯行列の際の進行歌。  
市民は各町内からこの歌を歌いながら、高岡神社（今の関野神社）を目指した。

#### ●300年記念祭実施年のナゾ

本来開町300年は前田利長公が高岡城に入場した1609年（慶長14年）から数えて、300年後の1909年（明治42年）に当たる。しかし、記念祭が開催されたのはその4年後にあたる1913年（大正2年）。なぜ大正2年に式典が行われたのか？その理由は文献に記載がなく不明である。

おそらく1909年は皇太子の高岡行啓があり、その準備で忙しく延び延びになるうちに、明治45年に天皇が崩御し、また延び延びになり、結果的に大正2年開催したのではなかろうか？との推察も。